

小柳の視点⑤

さいたま都民が
早く帰りたくなる
さいたま市に！

さいたま都民、東京のベッドタウン問題の解消に取り組む。さいたま市を楽しむさいたま都民を増やし、地元消費を促すことで、地域活性化をはかる。また政令市という大都市の潜在能力を生かし、まちの活性化につなげる。



小柳の視点⑥

浦和の未来をもっと素敵に！

文教都市浦和として、昔から引き継がれた地域資源を生かした教育・芸術・スポーツなどの発信拠点として、地域の活性化を進める。また、大規模災害時にはそれぞれが、災害対策拠点としての役割を担う。

現庁舎跡地には、 教育機関など文教都市の象徴としての活用を

現庁舎の跡地利用は、文教都市の象徴となる施設であるべきと考える。例えば、海外の一流大学の日本校などは、地域教育への貢献や教育産業の誘導、若い世代が毎年流入するなど、地域活性化に効果が期待できる。また、教育・研究施設であれば、敷地内での緑や広場の確保、備蓄や災害時の拠点スペース、地域のコミュニティスペースとしての教室利用なども可能なはずである。現庁舎の跡地を点で考えるのではなく、浦和駅・北浦和駅・武蔵浦和駅・中浦和駅からの徒歩圏内にある「エリアとしての浦和のまちづくり」を考えることが、広く地域の発展につながるはずである。



市民会館うらわの跡地は、 美術館＆アートセンターに！

現在解体作業中である市民会館うらわの跡地は、浦和美術館をロイヤルパインズホテルから移設するとともに、アートセンター（市民の文化活動の拠点）の機能も含めた活用を検討するべきと考える。現市役所の移転後の跡地や税務署跡地、県庁の建て替え時の再編計画、埼玉会館などを中心に、教育・文化・芸術・科学など、文教都市のシンボル的な地域とする。駒場にある宇宙科学館の移設なども、これらの要素と親和性が高く、検討の余地があると考える。



駒場競技場周辺のスポーツタウン構想

駒場競技場周辺は、駒場公園内にサッカー場・陸上競技場・相撲場・駒場体育館やテニスコート・市民プールなど、スポーツ施設が集積している。日本通運硬式野球部の練習拠点も隣接している。それらを浦和レッズレディースの本拠地でもある女子サッカーの聖地として、また市民スポーツ環境の向上と緑を守るために、総合スポーツタウンとして再整備することで、浦和駅や北浦和駅東口の賑わい創出にもつなげる。両駅から徒歩圏内にある立地は魅力的である。周辺の住環境にも配慮しながら、民間力の活用により公費負担を減らし、利便性の向上をはかる。



市政へのご要望・ご質問は

小柳よしみ事務所

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町23-19-2F

TEL: 048-799-3232 FAX: 048-799-3233

E-mail: info@koyanagi.jp
ホームページ: http://koyanagi.jp/
ブログ: http://ameblo.jp/y-koyanagi/

『後援会イベントでハイ、チーズ！』



さいたま市議会 さいたま未来市議団 <http://saitamamirai.org/>

こ や な ぎ

小柳よしみ

小柳よしみ 検索
市政レポート
2023.3 vol.54

〒330-0055
さいたま市浦和区東高砂町23-19-2F
T E L 048-799-3232
F A X 048-799-3233
E-mail info@koyanagi.jp
ホームページ <http://ameblo.jp/y-koyanagi/>
ブログ <http://ameblo.jp/y-koyanagi/>

『さいたま未来』と創る さいたま市の未来！

～アフターコロナの社会は地域と市民が主役で～



浦和つ子

プロフィール

- 昭和40年(1965年)
8月27日生まれ A型
- 浦和市立高砂小、岸中、県立浦和高、慶應義塾大商学部卒業。
- 埼玉銀行を経て、警備会社を経営。
平成23年よりさいたま市議会議員(浦和区)。
- 平成27年(2期目)、平成31年(3期目)
浦和区にて当選。
- 文教委員会、決算特別委員会(理事)、
議会改革推進特別委員会



使い方かんたん!
カメラでQRコードを
覗くだけ!

『聴けるレポート』

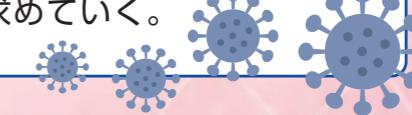
視聴方法

自分が不自由な方には、QRコードを読み込むサポートをお願いいたします。QRコードを読み込むと表示されるリンクをタップして、プレイヤーの再生ボタンを押してください。音声は、種類・速度が変更できます。また、目次機能は、左下の三本線の目次メニューから選べます。



新型コロナ対策の検証をしっかりと！

新型コロナウイルス感染症が猛威をふるったこの約3年間、市民生活、子どもたちの学習環境や地域経済に多大な影響があり、この間多額の税金と労力を投入し様々な対策が行われてきた。これら新型コロナ対策の効果検証は、しっかりと行うべきである。トータルの数字だけではなく、どういった効果や弊害を含めた影響があったのかを検証する必要がある。それは、今後も起こりえる新たな感染症への対策や、大規模自然災害時の対応へも応用すべきであり、役所内の組織体制や、埼玉県、地域の諸団体との連携についても同様である。今するべきことや、アフターコロナの未来へ向けた教訓として生かすために、必要に応じて国や県にも求めていく。



【地域政党】
さいたま未来プロジェクト
公式HP



さいたま市議会議員
小柳よしみ
公式HP

地域の課題へまっすぐ。市民と共に未来をつくる！

私は「何をするか」だけでなく「どうやるのか」まで考える議員でありたい。

4つの視点



5つの政策ポイント



- リモート・バーチャルなどIT技術による誰もが学べる環境整備
- 学校を利用した放課後の子どもの居場所づくり、学童の運営支援
- 預けたい時に預けられる病児保育・障害児保育の拡充



- 自治会・消防団・自主防災会・防災士等の活動支援の拡充
- ドローンを活用した防災・地域経渋・市民活動等への支援
- マンション管理の適正化推進支援
- ペット防災の推進



- ケアラー・ヤングケアラー支援の拡充
- 障害者・要配慮者の歯科治療施設、口腔保健センターの新設
- 高齢者や障害者等、要配慮者優先避難所の環境整備



- BUYさいたま！市民ワンコイン消費運動
- 大規模イベント等の商店街・地域経済への波及効果の実現
- 女性のマイクロビジネス起業への支援



- 自転車安全利用、マナー向上に資する施策（教習施設等の設置）
- 学校施設の開放によるスポーツ・文化・市民活動拠点の拡充
- 自由に遊べる公園やプレイパークの拡充



小柳の視点①

公園をもっと魅力的に！

新型コロナの感染拡大を機に、地域の公園の大切さに気が付き、利用者も増えている。一方で、公園が足りない、つまらないという声も多く聞く。昨年度まちづくり委員長として市に提出した提言をもとに、以下の取り組みを進めたい。

◆公園のトイレをもっときれいに、もっと快適に！

公園のトイレの不便さは、公園の魅力を大きく損ねている大問題であり、改善が必要である。また、遊具が撤去されたままになるなど、公園の魅力や利便性が置き去りになっている。公園の管理・運営・魅力向上に対する予算と施策の強化は、重要である。



◆禁止事項ばかりの公園から もっと自由な公園に

禁止ごとばかりの公園から、できる事やれる事を増やしてもっと楽しめる公園にすることは、令和3年度まちづくり委員会提言（委員長：小柳嘉文）でも明確に求めている。公園内看板などの表示内容をできることを中心に変えたり、地域と利用者が公園の使い方を話し合って決める協議会の設置の検討も進められているが、実際のモデルとなるケースを増やすべき。



小柳の視点②

放課後児童クラブの支援の拡充を！

放課後児童クラブは、今や重要な社会インフラの1つであり、子育てにおいては欠かすことができない施設となっている。したがって、もっと公的な支援が必要である。また、都市部においては場所の確保が困難であり、対策が急務である。

◆場所の確保など、 行政がもっと主体的支援を！

国の補助メニューを最大限活用した支援を行うとともに、場所の確保については行政が主体的に調整すべきと考える。保護者が歩き回って仕事の合間に新設や移転先を探すのは大変なこと。また、学校の空き教室や敷地内への設置や、学校施設の多目的化プロジェクトとも連携を取りながら、行政がもっと能動的・積極的に取り組む必要がある。

◆多子世帯への支援強化

多子世帯が大変なのはお金だけではない。買い物に行くだけでも子どもが多いと大変な苦労になる。少子化が進む中、多子世帯への子育て支援のためにも、放課後児童クラブへの入所審査における多子加算の導入等により、入りやすくする検討が必要である。



所製作2013年3月



小柳の視点③

みんなで生き残るためにの防災対策

東日本大震災後、障害者の被災率が総人口における割合に比して2~4倍高いという調査結果が出ている。支援が必要な方は、高齢者・妊婦・けがをしている方等存在し、災害弱者を出さない取り組みが必要である。また、大規模災害時に中心となる在宅避難者への対策は、重要課題である。

◆在宅避難対策の強化

大災害時には、避難所では避難者全員を到底収容できない。また、新耐震の建物は、大地震でも容易に倒壊しないことも示されている。現在、避難所運営を中心に検討されている災害対策において、在宅避難を前提とした対策の強化を進める。また、地域の防災備蓄品についても、生理用品やオムツなどの消耗品も絶対に必要になるのは分かっているので、備蓄品対象として追加すべきである。

◆災害弱者を出さない防災対策

公民館等、要配慮者優先避難所の受入れ体制整備やマイタイムライン作成促進等、災害時に被災率が高い障害者や高齢者を、災害弱者にしない取り組みを進める。福祉の専門家の配置や、実践に即した避難所運営訓練の実施と環境整備、不足している施設の拡充を図る。



小柳の視点④

学校施設多目的化 プロジェクト

学校は、電気・エアコン・トイレ・水場などがあり、大変便利な施設である。空いている時間の多い教室を有効活用することで、速やかな対策が可能となる。

◆放課後・休暇中の教室を、 子どもの居場所や市民へ開放する！

放課後や夏休み中等の空いている教室で、子どもの居場所づくり事業等の新たな預かり機能を創出する。また、週末や夜間も活用可能であり、自治会やサークル等の活動場所としても使うことができる。また、テニスコート等は市民開放を進める。セキュリティ対策等は必要であるが、改修などで対応ができる、最低限のコストで時間をかけずに実現できる。

小柳の提案

高砂小学校 複合化建替えプロジェクト

高砂小は、創立150周年を前にプレハブ校舎が新設されたが、駅前の再開発事業やマンション建設が進む中、今後も教室不足が心配される。校舎の老朽化も進み、駅近という事もあり、学校と教育の拠点施設、コミュニティ施設やプール、体育館も交えた複合化・建替えの準備をする府内プロジェクトチームで、検討が始まっている。教室不足には早急に対応すべきである。また、近隣の県立浦和第一女子高では、閉鎖した附属幼稚園など、築50年超えの老朽化した建物の有効利用が図られていない。将来計画を進めるにあたって、こうした点も考慮して市と県がしっかりと協議することも必要と考える。

